

令和5年度 第2回ゼロカーボン研究会 事後調査報告

1. 調査概要

1.1. 目的

ゼロカーボン研究会に参加する自治体及び事業者等の研究会へのニーズを調査・分析し、岡山連携中枢都市圏、周辺自治体、事業者及び大学等と「ゼロカーボン社会」実現へ向けた“実現可能な事業創出”につながる研究会及び分科会を開催することを目的とする。

1.2. 実施日

2023年7月25日(火) 研究会終了後

1.3. 調査対象

令和5年度 第2回ゼロカーボン研究会の参加者46名（自治体11名、民間事業者・その他35名）を対象にアンケート調査を行った。

1.4. 調査方法

アンケート形式は、用紙記入、web記入の回答方法とした。

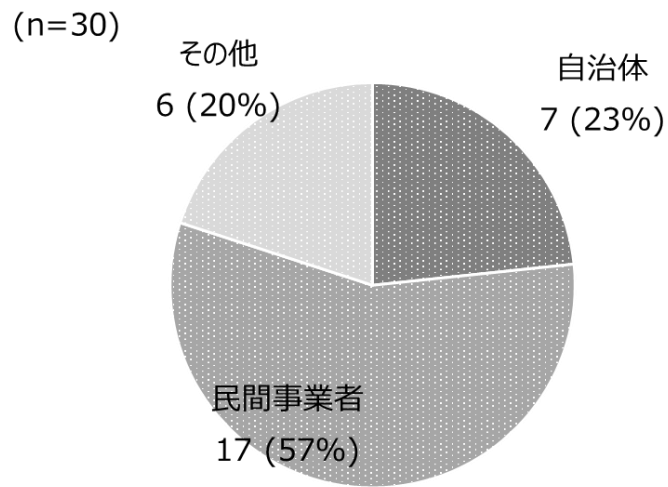
1.5. 回収状況

回答数：30件（自治体7件、民間事業者・その他23件）

回収率：65%（自治体64%、民間事業者・その他66%）

2. アンケート結果

1) アンケート回答者の所属区分

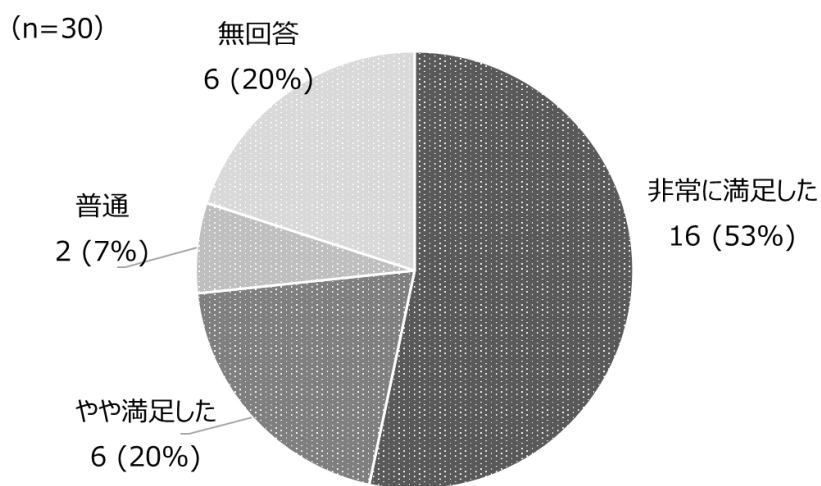


【その他の内容】

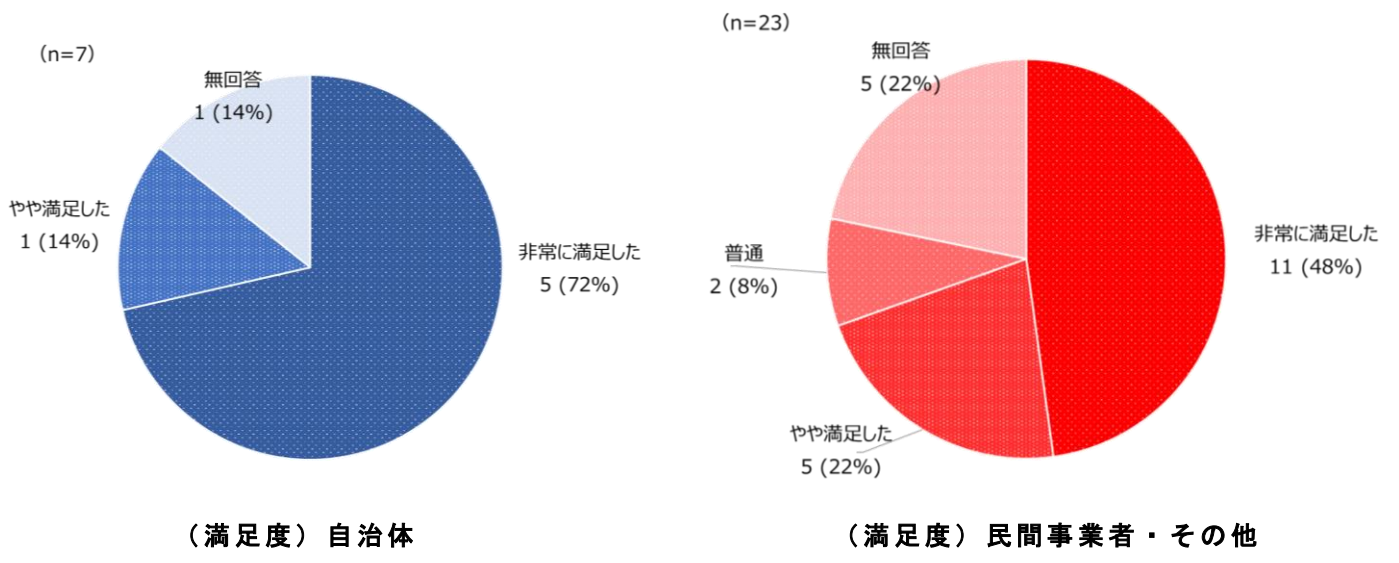
- ・ 支援団体
- ・ NPO
- ・ 中国四国地方環境事務所（3件）
- ・ ガス会社

2) 今回の研究会に対する満足度を教えてください。

- 全体の満足度は「非常に満足した」が最も多く、全体の53%であった。また73%が満足したと回答した。

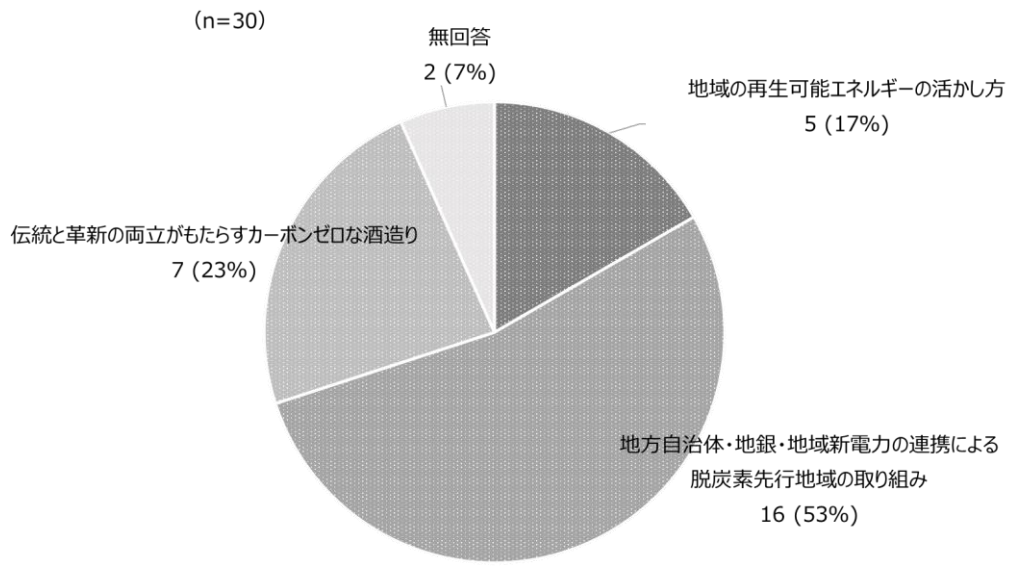


回答者：全体

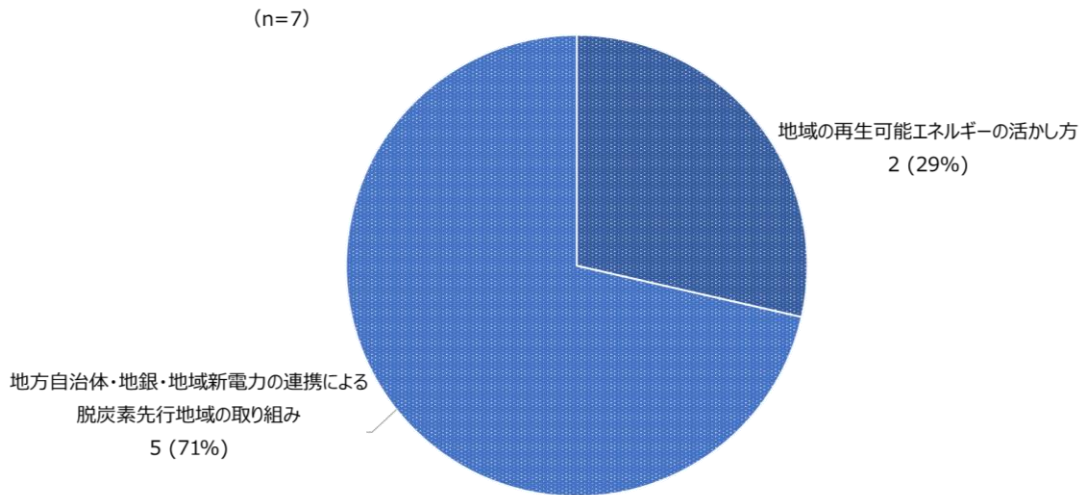


3) 最も参考になった講演内容を選択してください。

- 全体の回答としては「地方自治体・地銀・地域新電力の連携による脱炭素先行地域の取り組み」が最も多かった。

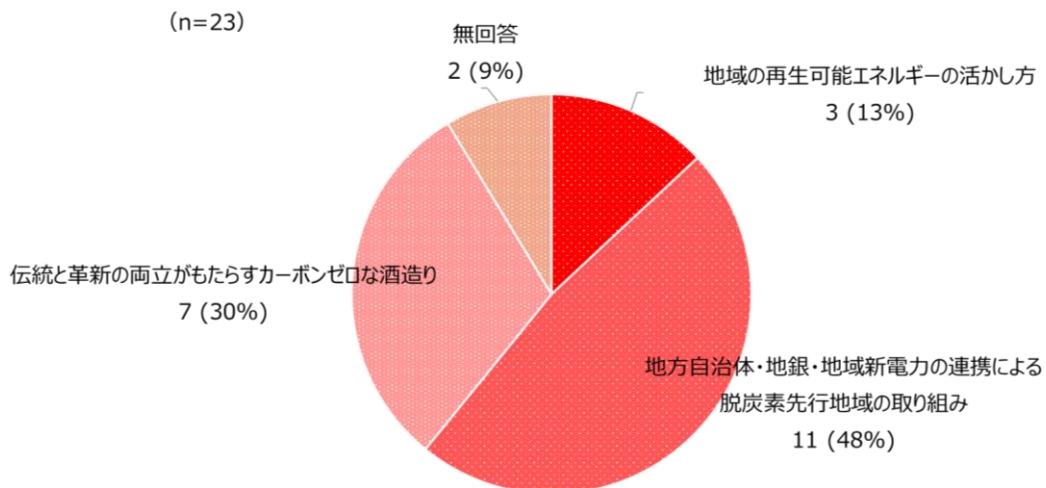


回答者：全体



回答者：自治体

- 自治体の回答では「地方自治体・地銀・地域新電力の連携による脱炭素先行地域の取り組み」が最も多かった。



回答者：民間事業者・その他

- 民間事業者・その他の回答では「地方自治体・地銀・地域新電力の連携による脱炭素先行地域の取り組み」が最も多かった。

4) 今回の研究会で印象に残った内容などあれば教えてください。

- ガス会社がEV事業に取りくんでいること
- サステイナブルを企業活動に取り入れる為には長期的な視野で取り組む必要があると感じました。
- デメリットの部分で、視野を変えたうえでメリットをアピールしていくと、取り組みやすいと感じました。
- 脱炭素を手段として地域課題を解決していく。

- 安福様の企業の競争力目線での取り組みは、清酒業界の動向として大変参考になりました。
- 配慮は必要だが、まだ認知が進んでおらずビジネス的には課題が多いこと。まだ認知拡大普及にあたっては、サステイナブル認知制度やグッドデザインなどわかりやすい付加価値付けが必要である。
- 神戸酒心館の安福様のお話で、しっかりと自社の課題等を把握した中で、DXや環境の取り組みを行っている点で素晴らしいと思いました。
- 電力の地産地消については、当町でも検討している部分もあり、大変参考になった。
- サステナブルな商品、取組へ取組むこと＝企業価値の向上と理解されていること。当社、顧客含めCNの本質を理解し、自社ができることをいかに考えられるか。非常に課題だと感じた。
- 実際に取り組んでおられるゆえのご意見は説得力がありました。以前からローカルエナジーのお話は聞いていましたが、次々と事業の拡大やネットワークづくりをされていて素晴らしいと思いました。岡山市でも取組みが始まればいいなと思います。
- 地域課題を脱炭素を手段で解決する。環境＜価格。環境→商品背後のストーリーが重要、価格→家庭には共感
- 宮津市のメガソーラー事例が印象に残りました。地域課題の解決と両立という考え方は色々なものに応用できそうです。
- 民生部門の電力消費に伴うCO2排出ゼロの取組
- 地域の優良な事例に自治体職員の熱意が大きく関わっていることがわかり、印象的でした。
- 自治体職員と民間企業との連携
- 脱炭素選考地域の取り組み項目、食品部門での脱炭素の取り組みはとても興味深かったです。
- みなさま県外の事業者さまが講演されていましたが、今回の講演いただいたみなさま全員実務的ですばらしいと感じました。新電力として地域連携を図りつつ事業運営をされたり、コストアップにつながる再エネ電源やカーボンニュートラル都市ガスの導入など色々チャレンジされているなと思いました。
- 日本ではまだまだ環境負荷の低い商品が評価されないと感じた。若い世代よりも中高年世代向けの行動変容が必須。難しいですね。
- 全ての講演が大変勉強になりましたが、ゼロカーボンの日本酒の認知は上がっても販売には至らないというお話がささりました。需要を作っていないといけないと強く感じました。
- 需要家、消費者の行動変容
- 森さんの言葉がわかりやすく今後参考にさせていただきたいと思いました。特に

「コンセンソの向こう側に価値を持ってもらうこと」

- 今回の講演会にて電気の地産地消スタイルを勉強できました。引き続き、地域への再エネ導入に向けて地域経済への波及効果へ積極的にPRして行きたいと思います。
- 何れの事例発表も自分事として課題解決に向けた取組をされていると感じました。
- どの講演内容もそうだが「地元へ裨益する」というテーマに非常にマッチした内容だった。食品でCNというのも新鮮だった。
- ローカルエナジー様の取組がよくわかりました。
- エネルギーの地産地消

5) 今後の研究会で取り扱ってほしいテーマやその他、ご意見・ご感想などあればお聞かせください。また、自団体で脱炭素化に向けて行っている取組についてPRしたい内容などございましたらご記入ください。

- 自治体さま向けに、EV導入に向けた（脱炭素）“無料トライアルの実証実験”を募集しております。
- 問5のような企業の競争力目線でのお話はもっとお伺いしたいと思いました。8月下旬に情報解禁で企業の脱炭素のとりくみ事例をお伝えできると思いますので、引き続きどうぞよろしく願いいたします。
- どれもすごく面白い話でありました。ありがとうございました。一方で、1コマあたりの時間が短く感じ、もっと深掘りした話を聞きたかったです。あと、他地域で前向きに取組んでいる自治体職員の話も聞けたりすると参加者の自治体様も自分事として聞けるのではないかと思います。
- 金融機関として自社、お客さまへCNに関するしくみ、サービスの充実が課題と考えています。具体的な案件相談や金融機関として「できること」「求められていること」が理解できる場があればうれしいです。
- エネルギーの見える化、共有。地元企業、個人の取組他
- 別途、中国電力の取組について紹介できたらと思います。（次の次？）
- 「環境」ブランディング、環境が響くマーケットの事例など、身近な成功例があれば勉強してみたいと思いました。
- 米子市など先進地域の自治体職員の方の話
- 各部門（製造、熱など）民間企業様の脱炭素への取組紹介など。
- 今回の稲垣さんのご講演を聞いて感じたのが、理論や専門用語（インプット）の蓄積だけじゃなく、実務や実行（アウトプット）に移行するべきだと感じました。せっかく勉強会をして事例共有ができていると思うので、例えば民間共同での第二セクターを立ち上げ、期間限定でも脱炭素事業に専念する（出向？行動参画？業務？）ことで岡山でも地域活性化につながるような取組や事業が生まれるんじゃないかと思います。政治的な問題はとりあえず置いて自治体がきっちり支えてくれる受け皿があれば民間事業者も積極的な参加ができると思っています。既存の組

織だとパワーバランスとか利権がめんどうなので、思いきって新しい部隊を作る方が良いと思います。

- 今月より第2ビルが（改修による ZEB Ready）運用を開始しました。いつでも見学可能です。本研究会の会場としての活用も可能です。
- 岡山市内での脱炭素に向けた成功例や実証施設の見学会等があれば良いと思います。
- 自ら考えて行動している人達の課題提供は得るものが多いと思います。本日の内容は、そのような内容であると感じました。
- 過去のゼロカーボン研究会をとおして、自治体様がどのような取組をされているのか。また、どのような課題を解決していきたいのか、ご説明いただけると幸いです。
- 意見交換でこれまで以上に更に理解が深まった。
- 太陽光+蓄電池+EV 充電器の組み合わせによる具体的な効果

以上